

2023年10月
 スキームD事務局

「文部科学省 × Generative AI Pre-3 - 生成AIを使ったビジネスアイデアを考えるアイデアソン」開催レポート

デジタル技術を活用した高等教育（短期大学及び高等専門学校を含む）の進化を加速するため、文部科学省が2020年度に開始した「大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブ（以下、スキームD）」の2023年度第4回目のイベントを開催いたしました。今年度は、先端テクノロジーとの交わりを深めるイベントを、7月以降複数回開催しており、今回は生成AIをテーマにアイデアソンを行いました。

（2023年度大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブ（スキームD）事業は文部科学省の委託を受けて、CIC Tokyoが運営しています。）



2020年度より開始したスキームDでは、デジタル技術を活用した高等教育（短期大学及び高等専門学校を含む）の進化を加速するため、デジタル技術の活用に関心のある大学関係者（教員のみならず職員や学生も含む）や、高等教育に活用できる可能性を秘めたデジタル技術・プロダクトをもつ企業（スタートアップ・大企業など）を応援してきました。

今年度は、年間を通じた断続的なイベント開催等を通してアイデアの発掘や実現支援に取り組むこととしております。今回のアイデアソンは、高等教育と生成AIというテーマで、33名の方々にご参加いただき、講師陣や運営メンバーと活気あふれる二日間となりました。

【開催概要】

開催日時：2日間

2023年10月14日（土）13:00-18:00

2023年10月15日（日）9:00-19:00

開催地：CIC Tokyo(東京都港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー15階)

主催：文部科学省

詳細 URL：<https://scheemd-ideathon2023101415.peatix.com/?lang=ja>

【講師/インスピレーショントーク】

デジタルハリウッド大学 教授 橋本 大也

IT批評家 尾原 和啓

【コーディネーター】

株式会社 N.FIELD 代表取締役 CEO 野中 瑛里子

タクトピア株式会社 創業者・代表取締役・ラーニングデザイナー 長井 悠

【講師】

NHN PlayArt 株式会社コーポレートエバンジェリスト 柏木 誠

共創プロデューサー / 「タニモク」開発者 三石 原士



冒頭は、文部科学省 前田隆司 氏とスキームD ステアリング・コミッティ座長 溝上慎一 氏よりスキームDの目的や概要、2日間の取り組みに激励の言葉をいただきました。また、本企画の運営に携わるメンバーの自己紹介や事前説明を行い、ワークへと移りました。



続いて、本ワークのコーディネーター 野中瑛里子 氏より、今回の企画説明やテーマ、審査基準について説明を行い、橋本大也 氏から本企画に際して、インスピレーショントークをいただきました。「学校の授業での生成AIの活用例」を題材に、英語の授業で和製英単語のリストアップやイラスト化、説明スライドの作成までをAIで行えるという実例や、物理法則である「物体の空中衝突」をグラフと文章を用いて説明する動画やサイト作成の方法をご紹介いただきました。参加者一同「そんなこともできるのか」と、生成AIの有用性に大いに刺激を受けた様子でした。



インスピレーショントークで刺激を受けたところで、参加者は「現状の理解と作りたい未来シート」の個人作成と全体共有、取り組むテーマの選別を行いました。シートは「ターゲット」「ターゲットの現状」「ターゲットに対する望む未来」という3つの項目から成り立っており、過去の経験を基に学生をターゲットとする方や、授業の質向上を求めて大学教員に力点を置く方など、様々な視点が示されました。また、選別された8つのテーマをもとに、グループ分けを行い、本格的なグループワークが始動しました。



また、グループワークに盛り上がりが見えてきたタイミングで、講師の柏木誠氏から作成したChatGPT-4上で稼働する「曖昧な点を指摘するプロンプト」をご紹介いただきました。

「ターゲット」「ターゲットの現状」「ターゲットに対して作りたい未来」の3要素を入力することで、その曖昧な点の指摘と改善策の提案を自動で行ってくれるというもので、このプロンプトを壁打ち相手にしてチームでアイデアを再検討している様子が見られました。このような流れで、チームの結成からディスカッションまでを行い、Day1は幕を閉じました。

Day2は、最終プレゼンテーションに向けてのガイダンスや、発表順番決めを行い、早速グループワークへと移りました。緊張もありながら、メンバー間で役割分担を行いそれぞれが強みを発揮して作業を進めるなど、メンバー同士の信頼と結束力が現れていました。



また、午前中にはコーディネーターの野中瑛里子氏と長井悠氏より、各チームへの個別コーチングを行いました。解決策の素案に対するアドバイスもさることながら、「そもそも、ターゲットの現状をどこまで理解できているのか」「理想とのギャップはどの点にあるの

か」といった、乗り越えるべき課題の解像度を上げるための質問が多く寄せられ、いずれのチームも追加の研究やプレゼンテーションの肉付けなどに拍車がかかっていました。



そして、中間発表では各チームのプレゼンテーションに対し参加者から熱く具体的なフィードバックが寄せられ、参加者が相互に高め合う雰囲気が会場に溢れました。各チームが様々な意見にぶつかりながら、提案をブラッシュアップし、最終プレゼンテーションへと移りました。

- ・ 研究を身近なエンタメにするために、論文をショート動画化できるアプリ
- ・ キャリア選択の不安を解消し、最適化するためのコーチングサービス
- ・ 医学教育で学生間のグループワークを促すAIファシリテーター
- ・ 大学教員の難解な講義をリアルタイムで解説/質問対応してくれるAIアシスタント
- ・ ヒューマンコミュニケーションを豊かにするための感性を磨くビジョンカフェ

などと、同じ教育という軸でありながら、様々な着眼点からのアプローチにより、多くのアイデアが発表されました。審査員からの質疑に対しても、チーム内での議論の経緯や、メンバーの豊富な原体験や知見をもとに熱心に受け答えする場面が多くありました。





全チームがプレゼンテーションを終えたのち、尾原和啓氏よりAIと未来に関する特別講演をいただき、遂に審査結果発表へととなりました。歓喜の声と賞賛の拍手に包まれ、2日間のアイデアソンを完走したお互いの健闘を讃え合う様子が見受けられました。

なお、最優秀賞及び優秀賞のチームへは2024年2月9日に開催予定の「[Scheem-D Pitch and Conference 2023 ～生成AIと教育～](#)」の登壇者募集において、審査が免除となる特典を進呈しました。より具体的な事業化検討への道が拓かれることとなっています。

<最終プレゼンテーション審査結果>

最優秀賞	Co-ファシリテーターズ
優秀賞	Paper 2 Clip
審査員特別賞	くるみ
オーディエンス賞	Paper 2 Clip
ChatGPT賞	Active大学生

今後もスキームDでは教育のデジタル化に向けた取組を進めるため高等教育のDXに取り組む方々（教育関係者・大企業・スタートアップなど）のコミュニティの構築と拡大を行って行きます。

スキームD事務局（CIC Tokyo内）

スキームDウェブサイト：<https://scheemd.mext.go.jp/>

